

# 文芸

## 短歌

### 米納三雄 選

巡りくる春の息吹に目覚めたる木々が膨らむ山が膨らむ

広崎 三浦タエ子

心静め太極拳する城跡に春の疾風は桜散らしゆく

安永 守住 孝子

流産を越えて再び身籠りし嫁の笑顔に涙一筋

広崎 松原まゆみ

新緑の息吹伝わる山路をリユックを背に楽しみ歩く

安永 山下たか子

川またぎ数多の幟風はらみ元気に泳ぐ青空に映え

惣領 島田 廣子

川土手を黄色に染むる菜の花に不況の風も暫し忘るる

安永 福田 圭子

しとしとと小糠の如く降る雨に生命貰うか若草萌ゆる

広崎 宮崎 逸雄

寂かなる朝露の庭に咲き満ちて煌く牡丹に心和むも

砥川 福馬たづ子

雄大な阿蘇外輪の風物詩色もあざやか肥後の赤牛

木山 増岡 伸禧

庭一面いまを盛りと咲く花に心華やぐ手入れをしつつ

上陳 永野やえ子

日曜のまる一日を初孫と遊びつかれて私はねむい

小池 増田さゆり

白き花に白き蝶二匹まいおりて花から花へといそがしそ  
に  
広崎 渡辺 裕子

## 俳句

### 富永小谷 選

不器用に蹴上げしボール山笑ふ

田原 佐藤 澄世

ねむごろに触るる樹木医樟若葉

赤井 西たかもり

底見えぬ谷の水音榊芽吹く

馬水 松本みどり

鉛筆をとがらせて待つ大試験

宮園 永田 自然

地の凹蹴りてふらここ空へ漕ぐ

宮園 丸野 紀子

石投ぐる流れかるやか春の色

惣領 山本みな子

みなぎりて雑木を統ぶる樟若葉

秋永 福岡ふさえ

春筍いたはり合ふて掘る日和

上陳 松本 昭子

椿落つ石の扉重き屋敷神

小谷 富永 きぬ

矮鶏の仔の独り遊びや名草の芽

小谷 上田 春日

## 狂句

### 田上富岳 選

次の一手 開き直って破産さす

木山 増岡 酔粋

次の一手 コネに連絡しておいた

広崎 一丸 寅三

次の一手 泣き落とそうか脅そうか

広崎 宮崎 逸雄

次の一手 子や孫のため親として

宮園 西田 流水

まだ早い 首切りどまあしなはん

惣領 小森英美子

まだ早い 竹の子探し足の裏

惣領 阪口 基明

まだ早い 親父が惜しむ愛娘

田原 野口 鈍輝

まだ早い 花なら蕾やりとなか

寺迫 新村 典子

まだ早い 地盤作りが先だろが

宮園 岩本ようこ

まだ早い 急げば大事を仕損じる

下陳 山田 凡骨

狂句次号の課題「おどんが仲間」「あー幸せ」

投稿は役場広報係まで。毎月15日まで必着。  
(数種に投稿される場合は、別にしてください。)

ぬれたままの手で電気機器に  
さわることをしていませんか？



ぬれた手は危険

手や足がぬれていると、  
100ボルトでも電気にさ  
わると感電死亡するこ  
とがあります。電気機器  
にさわるときは、手足を  
よくふいてからにしてく  
ださい。



財団法人 九州電気保安協会